

九月十三日

午後研究室打合せ。十六時半日本福祉大学西垣さん一行来室。

九月十四日

午前中雑用。午後研究室に戻り、台湾新故宫南院のコンペ作業を行う。海外でのプロポーザルのエクササイズと考えて、集中した。二十一時迄ぶつ続け、九時間の作業で一応の形は整えた。流石に消耗する。二十二時過世田谷村に戻る。室内原稿に取り組もうとするがうまくいかない。疲れて眠ってしまった。一日に出来る事にはかぎりがある。

九月十五日

七時室内原稿七枚書く。十時四〇分研究室。台湾、新故宫南院コンペの仕上がりチェック。今日が送附のリミット。十一時M1世界の住宅価格ゼミナル。十三時過李祖原と讃岐うどん昼食。李祖原はうどんの大を頼んだが、大方残した。テリブルだって。食後、残りの原稿を書く。グラが出てから手を入れよう。十三時半新木場現場定例会。六十Mの杭打ちが少し遅れている。十四時半途中で抜けて、東大へ。今日は技術と歴史研究会の例会で、李祖原のレクチャーが予定されている。六本木のトモ・コーポの曼陀羅展は人は入っているのだが・・・これからです、との事。十万から七十万の値を付けた美術商品にフリーの客があり得ぬ現実

を友岡Jrも学んでいるのだろう。私の銅版画だって似たようなモノだ。十七時三〇分東大。十八時李祖原レクチャー。いつもの事ながら彼のレクチャーというかプレゼンテーションは、大方の聴衆に大きなとまどいを与える。そのとまどいの素は彼の成功のベイスになっているものが仲々に解らぬからだろう。つまり、中国人建築家として、最大、最高（物理的に）の仕事は何故獲得し得ているのか、誰の眼にも耳にも良く知り得ぬ所が大だからだ。成功する者はいつでもその様な不可思議さの最中に在るものかも知れぬ。十九時半レクチャー修了。いつもの通り、料理屋宮本で食事。食後、李祖原を地下鉄早稲田まで送り、世田谷村に二十三時戻る。

山口勝弘先生から葉書が届いていた。先生にも会いに出掛けねばならないのだが、何とも体がいう事を聞かぬ。体が時間を作れぬのだ。弱くなった。明日は早起させねばならぬ。

九月十六日

六時十五分起床。七時四〇分小田急線喜多見駅。八時高山邸現場。高山さん、八大建設、梅沢構造事務所打合せ。十時半迄。十二時研究室。李祖原と昼食。昨夜の東大でのレクチャーも含めて、中国建築の将来及び中国人建築がインターナショナルな存在になる可能性について議論する。M₁李は単刀直入なところがまことに良い。十四時清水建設G来室。十五時半芸術新聞社インタビュー、十六時半新しいパウハウスからのドイツ人学生来室。十七時Dr₁コースの大津君メキシコ留学より帰り来室。一年のメキシコ留学ですっかり明るくなって帰ってきた。メキシコで明るくならないでどうするという感もあるが、とり敢えず良かった。十七時過、野口君来室。目まぐるしい程に人が訪ねてくれて嬉しいよう

な、疲れたような。二〇時前、調布の馬場さん宅へ、河野鉄骨同行。工事契約。二十一時半終了。来週より工事にかかる。二十二時過世田谷村に戻る。